

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100699		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹		
所在地	佐賀県佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

くつろ樹事業所では、お一人ひとりが個人の個性や力を大切に自分らしく当たり前の暮らしを継続して続けられる環境を作り、地域住民の方々やご家族様との交流も持ちながら安心・安全な場所であるよう努めています。また、職員は笑顔で接し、ご利用者・ご家族様の思いや願い、要望を伝えやすく、楽しく生活を送って頂けるよう、意思及び人格を尊重し、常にご利用者様の立場にて支援を目標に努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紅葉した山々とみかん畑が広がり、桜や古墳もある自然豊かな所に佇むホームである。母体法人が運営する他の施設も敷地内にあり、法人の経営理念や処遇モットーを基に事業所同士の連携も築きやすい。コロナ禍で人との交流が制限される中でも、敬老会や外出支援、料理やおやつ作りなど、職員の方は入居者や家族の思いや願いを大切にしている。「その人らしく生活してほしい。」「終の住処として、最後まで楽しく過ごしてほしい。」という、同じ志を持つ職員が、日々の入居者の笑顔の支えている。また、愛情の込められた日常の中にも、研修会参加や自己研鑽を通じての職員の高い技術と知識、知恵が垣間見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の部会にて経営理念・処遇モットーの唱和し確認を行い実践に努め、又、年度初めのくつろ樹事業所の目標を設置し実現に取り組んでいる。	法人の理念は日頃より職員に浸透し、理念を基に年度始めのホームの目標を立てている。また、毎月の部会や法人研修の際にも、理念を学ぶ機会がある。職員は課題に直面した際、理念に立ち返りながら解決を試みている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度はコロナ禍のため、感染予防対策の一環として地域の方を招いての敬老会や秋祭りなどを中止しており交流の場はなし。	法人の経営企画室を中心に地域とのやり取りを行い、その中でホームの役割を担っている。コロナ禍で地区行事やホームの催し物はできないが、定期的にボランティアの方が来て、掃除や植物の手入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館などに「みかん倶楽部」と称して事業にて参加させて頂いていたが、現在はコロナウイルス感染予防対策の為、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策として今年度も2ヶ月に1回の開催予定を中止し、書面にて行事報告や予定、利用者様の様子や近況をご家族、市町村担当へもお送りしている。	コロナ禍により対面での会議を中止し、書面でのやり取りを行っている。書面と一緒に送るホームのアルバム写真は、皆さんから喜ばれている。書面での参加者への意見を集約できる仕組み作りは、まだである。	書面での会議参加者への意見を集約できる仕組み作り、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、運営推進会議等が中止になっており、ご家族様へ送付している物を市町村担当者へもお渡し取り組みを知っていただくよう努めている。	日頃より、法人全体で役場や地域包括支援センターと連絡を取り、地域の実情に即した対応を行っている。また、災害時には地域の避難所としての役割を果たし、ホームでも緊急時の要介護者の宿泊所になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し職員全員が理解し身体拘束をしないケアを実施し取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。身体拘束について、法人として学ぶ機会が確保されており、言葉や薬による行動抑制等についても職員は理解している。また、法人全体でも外部講師や動画配信の研修会を行い、職員の意識、スキル向上に役立っている。職員は研修を受けての感想や自己評価を行い、ケアの振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5月に園内研修にて勉強会を実施し職員全員の意識付けや振り返りを行い業務に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修や部会などで学ぶ機会があり知識の向上に努めている。11月に園内研修予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項を契約時に説明を行い、退居時にも話し合いの場を設け、ご理解、ご納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は昨年度より中止になっており、面会も10月より再開となったばかりの為、電話やご意見箱を活用し運営に反映できるように努めている。	面会時や電話等で入居者の様子を伝え、適宜家族から意見をもらうようにしている。また、介護計画作成時にも話し合いの場を持ち、運営に関する意見も聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会にて意見や提案を反映できるよう努めている。	日頃より、職員間で意見交換しやすい雰囲気がある。毎月の部会で現場の意見を集約し、管理者が法人の責任者に報告する仕組みが整っている。また、どの職員にも必ず発言する機会があり、偏りの無い意見となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課や福利厚生に力も入れ、ハラスメント研修や働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づき、法人内では動画やリモートにて研修に参加し知識・技術の向上に取り組んでいる。法人外での研修には参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も法人外の研修には参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とコミュニケーションを取りながら要望など話しやすい環境を作り、傾聴し安心を確保するため関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や要望・不安などを傾聴しサービス提供に反映し安心・納得した関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族共に不安など傾聴し、ケアマネがサービス提供時に反映できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経営理念を基に一緒に暮らすうえで一方的にならない様に利用者の状況など確認し、家事活動を職員と一緒にを行う機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスや運営推進会議などを通じ、信頼関係を築いてけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策の為、面会や外出などは制限を設けているため思うような支援は出来ていない。	感染対策や制限時間を設けながら面会を再開し、家族との交流を深めている。また、民生委員さんや元同僚の方など、馴染みの人にも電話や手紙、年賀状、暑中見舞いを送りながら関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特徴などを把握し職員同士で共有を行い座席を考慮し楽しく会話できる関係に配慮しトラブルになる前に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取り組みを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、一人ひとりの思いや希望・意向を傾聴する環境を作り職員全員で把握するよう努めている。	入浴時や血圧測定時等、ゆっくりとした時に入居者の思いを聞いている。また、意思表示が難しい方には、表情や仕草、何気ない会話から読み取っている。また、職員間で話し合い、誕生日には好みの料理を提供する等、思いや意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表やご本人とのコミュニケーションの中で今までの生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の部会にてご利用者の状態・現状を話し合い職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部会や半年に一度はご家族同席にて現状に即した介護計画を作成している。また、3ヶ月毎にモニタリングを実施しカンファレンスも行っている。	電話や面会時に家族の意向確認を行い、入居者と家族同席の下、介護計画を作成している。また、介護目標や実行表を基に職員は日々介護を行い、ケース記録やモニタリングを通じて、入居者の課題に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別ケースに記録。部会にて職員全員で情報を共有し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して部会や家族様と話し合い柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年と同様、現在もコロナウイルス感染予防対策の為、制限があり実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望があれば協力医へ主治医を変更していただいているが、以前からの主治医を希望されるご利用者様へはご家族を通じて情報交換を行うよう努めている。	受診時、家族に入居者の様子を伝えたり、手紙でも医師に伝え情報共有を行っている。また、夜間緊急時も、医師や訪問看護師との連絡体制が取れている。専門医の受診は、家族で出来ない時はホームで行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は、訪問介護ステーション「ALTON(アルトン)」と契約。週に1度訪問され、訪問以外では電話にて健康管理・医療面を相談し対応を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に病状を伺い、担当医、看護師、ご家族様との情報交換を行っている。早期退院に向けて話し合いも実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族様と話し合い、指針を決め情報共有を行いながら、協力医とも連携を取りながら支援していく体制を作り、に努めている。	重度化した際は、医師や看護師、家族と連携を取り、治療方針について随時話し合っている。看取りの際は家族も入居者の部屋に寝泊りし、家族と一緒にエンジェルケアを行うこともある。また、利用終了後、職員同士で看取りの振り返りを行う機会もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて8月に「救急法」の動画研修も実施しており、沿った対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の消防訓練計画をたて、昼間、夜間の想定も行い訓練を実施している。今年度はコロナ感染予防対策の為、実施できていないが、シオンの園施設全体の避難訓練は行っている。	年3回、日中や夜間の火災避難訓練を行っている。また、法人全体の災害対策マニュアルの下、役場や消防団、地域住民とも連携し、他県からの救援物資の供給体制もある。災害時の地域の避難所の機能も担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉掛けを心掛け、勉強会なども実施し努めている。	トイレ誘導時には入居者の耳元で伝え、居室に入る際は、誰もいなくても一声かけている。入浴時にはタオルやカーテン等で体を隠し、同性介護にも気を配っている。また、個人情報ファイルも安全に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から希望等を確認・準備し、自発的行為を尊重した対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動などを見極め希望に添った柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思や希望に添うよう柔軟な対応に心掛けている。定期的な理髪サービスも利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食前の注ぎ分けや食後の食器拭きなど家事活動に取り組んでいただいている。	入居者に合わせた食事形態に整え、誕生日会や定期的な嗜好調査を行い食事を楽しめるよう支援に努めている。また、朝食時に味見をしてもらったり、季節にちなんだ料理やおやつ作りを行っている。運動会の時には、お弁当風の食事を提供し、食事も含めた雰囲気を楽しめるよう工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼・夕食と外注(セイブキッチン)に依頼し、提供時には個々に合わせた食事形態・量を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清拭は行っており、義歯の方には毎週1回に洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄状況を把握し、排泄案内を行っている。利用者様のその時々に応じた支援を行うよう努めている。	入居者の状態や排泄状況に合わせ、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレの利用等、個々に合わせた対応を行っている。排泄の自立支援に努めた結果、退院後オムツだった入居者が、トイレ誘導を行えるようになり、リハビリパンツに替えることが出来た事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜や10時の水分提供時には乳製品を提供し、運動や排泄時のマッサージを行い水分も多目に提供し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後、毎日入浴を実施。利用者様の状況に応じた支援を心掛けている。	家族から寄付されたリフト浴も使いながら、その時々入居者の体調や状況に合わせた入浴を行っている。また、入居者が心地良く入浴できるよう同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に応じた対応を心掛け、その時々ではソファで寛がれ、居室での静養とお勧めするも、日中の活性化も図りつつ支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は職員が閲覧できる状態にしており、内服薬変更時にも症状など家族様や主治医に情報提供を努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活にて役割を持っていただき職員と共に行い、自主性は尊重し支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナ感染予防対策の為、外出支援はできていないが、今後は、季節に合ったドライブなど希望にあった支援ができるよう努めていきたい。	感染対策を徹底しながら、外気浴や散歩、ドライブ等を行っている。最近では、車窓からではあるが、河川の鯉のぼりやバルーン、花見やコスモスを見に行った。家族の要望があれば、感染対策を行った上での冠婚葬祭の参加の支援も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者個人にて保管されている方はおられないが、お金は所持し使えるよう対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり掛かってきた際は都度対応を行っている。手紙やはがきが届いた際は、やり取りができるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるように季節や天候の良い日は窓を開けるなど配慮し室内温度・湿度もチェックを行っている。	天井が高く開放感があり、大きな窓からは暖かい陽光が差している。壁には入居者の写真や作品、家族から贈られた品々が飾られている。また、中庭には、季節ごとの花や植物がある。職員は感染対策を行い、足音や声のトーンにも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間内のソファやテーブルなど利用され思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々の馴染みの物や好みの物を持ち込まれ心地よく過ごせるよう努めている。	馴染みの品や家具、写真が飾られ、入居者の思い入れのある部屋づくりがなされている。また、入居者の生活習慣や体に合わせ、ベッドや家具の配置を決めている。布団で寝ていた場合は、畳を敷いて布団で寝るようにする等、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活が送れるように努めている。		